

〈資料1〉

令和4年度

第2回宇治市小中一貫教育推進協議会 資料

令和5年3月7日(火)18時00分～
宇治市生涯学習センター2 階一般研修室

目 次

1 令和4年度宇治市小中一貫教育の取組について	
(1) 令和4年度宇治市小中一貫教育の取組状況	… 1
(2) 令和4年度中学校ブロック年度総括票	
・宇治中学校ブロック	… 4
・北宇治中学校ブロック	… 6
・槇島中学校ブロック	… 7
・西小倉中学校ブロック	… 8
・西宇治中学校ブロック	… 9
・南宇治中学校ブロック	… 10
・宇治広野学園(広野中学校ブロック)	… 11
・東宇治中学校ブロック	… 12
・木幡中学校ブロック	… 14
・宇治黄檗学園(黄檗中学校ブロック)	… 16
 2 令和4年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告	… 18
 3 令和5年度に向けて 今後に向けた方向性	… 19
 4 その他	
(1) 令和4年度 宇治市小中一貫教育についてのアンケート 報告書概要版(資料2)	
(2) 西小倉地域小中一貫校整備事業進捗状況について(別紙参照)	

令和4年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(1)

学校教育課

	⑥ ブロック目標 ○ 運営組織体制 ○ ラーニングコーディネーター校務分掌 ◇ 教科連携教員教員等	○ 合同研修会・研究会等	○ 体験活動 □ 児童生徒交流活動	○ 家庭・地域と連携した取組	○ 学力診断テスト活用 □ 授業システム ◇ 家庭学習の取組	○ その他 □ 研究指定事業 ◇ 小小連携
1 宇治中B	⑥「ふるさと学習」を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成」 ○ブロック校長会、ブロック教頭会、コーディネーター会(授業づくり部、人権教育部、児童生徒連絡部) □小学校教務主任 ◇【市:英語】	○小中合同研修会(年4回) 9つの教科部会において授業研究会を実施 「自分の考えを文章化する」をテーマに指導案検討・研究授業参観・事後研修会を実施 ○人権教育研修の実施 英道小での同和問題に係る直接学習の参観	□宇治中学校校舎半日体験入学の実施 中学生による小学6年生への部活動の説明	○小中一貫教育校だより(FUT)を発行 分散型となる神明小の記事も掲載	○全国学力・学習状況調査の分析・活用研修 □宇治市「アクションプラン」において、学力(国語力)の向上に向け、授業研究会を実施	○中学校の定期テストについて小6児童対象に不安解消の取組 □コミュニケーション・スクール研究校(英道小)
2 北宇治中B	⑥「学力の向上を目指す、多角的に小中の連携を進める」 ○3校校長連絡会 企画会議(校長、教頭、コーディネーター) 学力部(学力分析・家庭教育、授業改善、道徳・総合、外国語(英語)、特別支援・教育相談、児童・生徒支援) コーディネーター会議 □中学校教務主任 ◇【市:体育】	○小中一貫教育総会の実施 ○6つの学力部各係会で実践交流を実施 ○中学校教員による小学校の授業参観の実施	□北宇治中学校半日体験入学の実施 生徒会による説明・部活動体験	○「小中一貫教育ニュース」発行 ○「家庭学習の手引き」を配付し 家庭学習の定着を図る	○全国学力・学習状況調査の分析・実践把握 学力向上取組実践の交流と連携 ◇「家庭学習の手引き」を発行し、有効利用	○中学入学前の「春休みの宿題」を発行
3 機島中B	⑥「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」 ○「夢・未来」会議(校長、教頭、教務主任) ブロックの校長会議、教頭会議、コーディネーター会議 部会(特別活動、生徒指導、特別支援教育、特別の給食道徳、国語、授業作り) □中学校教務主任 ◇【市:英語】	○合同研修会の実施(年6回) ①中学校授業参観 ②全大会(今年度の方針・学力向上プラン確認・グループ会議) ③小学校授業参観 ④発達障害のある不登校児童生徒について講師を招いた研修 ⑤小学校授業参観 ⑥全大会・グループ会議(学力向上に向けて、学力分析・課題の交流)	○服のカプロジェクトの実施 □小学6年中学校体験の実施 ※部活動体験のみ □小中絵画巡回展	○小中一貫教育便り「マキシマム」の発行・HP掲載	○学力向上に向けた課題解決への取組や授業改善への協議・交流	○Zoomでのコーディネーター会議 ○Zoomでの「夢・未来」会議
4 西小倉中B	⑥「小中9年間を通して 地域と共に子ども達の豊かな心と確かな学力を育む」 ○西小倉中ブロック小中一貫教育推進会議 ○校長部会、教頭部会、コーディネーター部会 ○学力充実・向上部、生徒指導部、児童・生徒交流部、養護実務部会 ■中学校教務主任 ◇【市:音楽】	○夏季合同研修会の実施(リモート) (学力分析・特別支援教育・学力向上) ○合同授業研の実施 中学校授業参観・事後研究会	□小6年体験入学の実施 授業体験・部活動体験	○「家庭学習アンケート」の実施・分析 ○「家庭学習の手引き」 ○「学校だより」やHPで発信 ○小中一貫だよりの発行	○学力向上に向けて、学力分析・授業改善 □「学習への動機づけ」 ◇「家庭学習の手引き」	○ラーニングコーディネーターによる小学6年生への出前授業(学期1回) 中学校生活概要・学習面・生徒指導面(ルール)
5 西宇治中B	⑥NIS目標「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かなたくましい人間を育てる」 ○小中一貫教育推進会議 (ブロック校長会、ブロック教頭会、コーディネーター会議) ○領域3部会(学力充実、生徒指導、教育相談、特別支援教育) ■小学校教務主任 ◇【市:英語】	○夏季小中合同研修会の実施 講師を招いてICTを活用した授業について研修 ○授業研の実施 ICTを活用した研究授業を行い、授業改善の研修	○小6「中学校の学習」説明会の実施 ○小6中学校体験の実施 ※部活動体験のみ □「朝のあいさつ運動」	○HP・各掲示版で小中一貫教育の啓発、地域への発信 ○「朝のあいさつ運動」	○学力向上に向けて、ICTを活用した授業改善 ◇「家庭学習の手引き」	○「春休みの宿題」を作成実施

令和4年度 小中一貫教育中学校ブロック活動状況(2)

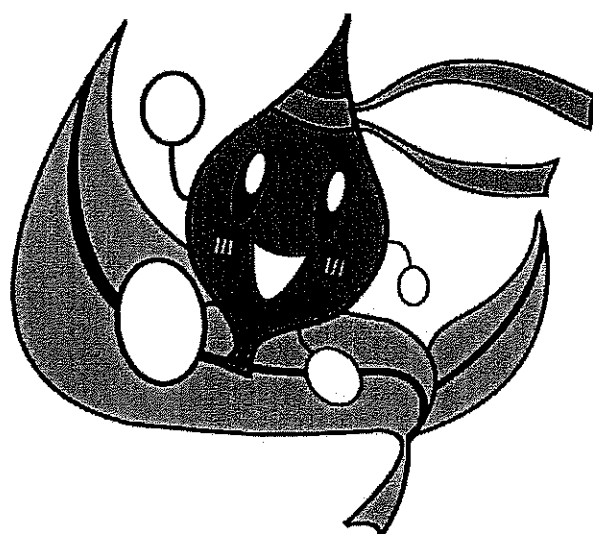
学校教育課

	◎ ブロック目標 □ 運営組織体制 ◇ ラーニングデザイナー・校務分掌 ◇ 教科連携教員教科等	○ 合同研修会・研究会等	○ 体験活動 □ 児童生徒交流活動	○ 家庭・地域と連携した取組	○ 学力診断テスト活用 □ 授業システム ◇ 家庭学習の取組	○ その他 □ 研究指定事業 ◇ 小・小連携
6 南 宇 治 中 校 B	◎「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」 ○学校運営委員会(ブロック校長会、教頭部会、事務局部会) ○指導部(特活部、生指、教相部、特支部、係外国入理解部) ○支援部(統括・栄養部、事務部) □中学校教務主任 ◆【附・理科】	○小中一貫教育合同会議及び3部会の実施 今年度の方向性・方針や課題について確認 ○小中一貫教育委員会合同研修の実施 ※オンラインで実施 ○小中連携参観(平盛小・南宇治中で実施) ※あわせて3部会を実施	○中文演習指導の実施 ○小6中学校体験入学の実施 ※授業体験と部活動体験 □児童会生徒会合同会議 (Zoom) □生徒会・児童会合同での あいさつ運動の実施	○学校により小中の取組発表 ○あいさつ運動・ボランティア活動への参加発表 ○「家庭学習の手引き」を配付	○学力調査の結果分析・授業改善 □ノート指導についての共通理解 ◇「家庭学習の手引き」の見直し	○新中1の「春休みの課題」作成 ○校長・コーディネーターを中心に 学校訪問 □コミュニケーション・スクール研究推進 校(南宇治中) ◇福岡児童理解学習 (西大久保小) ※平盛小日本語教室より
7 広 野 中 校 B	◎「夢や希望を持って未来を切り拓く児童生徒の育成」 ○学校運営委員会(ブロック校長会、教頭部会、事務局部会、児童生徒交流部会、その他の部会(小・小学年部会)) □中学校教務主任 ◇【附・数学】 【附・音楽(小・小)】	○宇治ひろの学園総会の実施 小中一貫教育の取組周知 ○夏季合同研修会の実施(Zoom) 3校協同研究の趣旨を確認	○小6中学校体験入学の実施 ※授業体験 ※小6の質問に生徒会が回答 □HOT-MEETING(3校合同児童 生徒会)の実施 □福島ひまわり里親プロジェクト □中学生による小学生への紙芝 居の読み聞かせ □巡回作品展	○保護者向けの巡回作品展の 実施 ○あいさつ運動の実施 ○HOOP(宇治ひろの学園小中一 貫)発行・HP掲載 ○「家庭学習の手引き」の配付 ○長期休業中の「生活のきまり」 について交流	○学力向上に向けて、学力分析・授業改善 □「伝え合う力の育成」をテーマに、非認知能力 育成の取組を実施 ◇「家庭学習の手引き」	○小・小連携や交流の充実(意欲年 音楽科での授業・定期的な情報交 流) □新たな学力分析の在り方に係る 調査研究(広野中ブロック) □地域・企業と連携したPISA型読 解力育成事業指定校(広野中)
8 東 宇 治 中 校 B	◎「命をかがやがやす人間」 ○ブロック運営委員会 ○ブロック校長会議、コーディネーター会議 ○学力充実推進部会 ○研究授業部会 □小学校教務主任 ◇【附・英語】	○小中合同研修会の実施(年2回) 講師を招き「非認知能力の向上」 について研修(一部オンライン) ※併せて合同学年会実施 ○相互授業参観 ○小中連絡会の実施(年3回)	○小6中学校体験入学の実施 □花輪ボランティアによるプラン ター贈呈 □中学生の美術作品巡回展示	○小中一貫教育についての発行 ○「家庭学習の手引き」の配付 ○各校の学校便り取組の発信 ○各校小中一貫教育コーナー (掲示版)の設置	○学力向上に向けて、「非認知能力」に焦点を 当てた学力分析・学力課題の共有 □授業スタンダードの活用 □「非認知能力」を働かせることのできる発問 や仕掛け ◇「家庭学習の手引き(原簿版)」の配付	○中学校からスクールライフサ ポートブックを小・小6年に配付 ○先スタ(中・小・小の学習)を小 ・小6年に配付 ○定期テスト対策(小・小6年)実施 ○小・小6へ中学校学校より配付
9 木 幡 中 校 B	◎「故郷(ふるさと)で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」 ○ブロック校長会、ブロック教頭会、一貫教育推進委員会 ○教科部会8教科 ○連絡会3領域(健康安全、学力充実・いしずえ、児童生徒 理解) □中学校教務主任 ◇【附・英語】	○小中合同研修会の実施(年3回) ※特別支援教育についての講演会含む 教科部会で、授業参観後、実践交流 連絡会で現状や実践の交流	○中学校生徒会が中心となり、 中学校半日体験入学を実施	○中学校の「学校だより」生活だ より」を6年生に配布 ○「家庭学習の手引き」配付 ○小中一貫教育だよりは発行、 取組をHPに掲載 ○新入生保護者説明会の実施	○「やましろ授業スタンダード」効果のある宇治 市方式を進めるアクションプラン」に基づいた、 学力向上のための主体的、対話的な授業づくり ◇「家庭学習の手引き」	○6年生卒業後の習休み宿題(国 語・算数・英語) ◇三校交流による小・小連携の実施 木幡小・笠取小・笠取第二小 御蔵山小・笠取小・笠取第二小
10 黄 葉 中 校 B	◎「たかく、すくなく、たくましく」 □小・小一貫の組織を構成 □小学校教務主任 ◇【市・英語】	○全ての教科・領域を通じて「主体的・対話的 で深い学び」を柱とした授業改善の研究 ○認知能力と非認知能力を一体的に育成す るための主体的・協働的に探究する活動の 研究 ○校務分掌や会議の小中合同実施	○黄葉ウォーカー(1,9年生) ○OB・AKUはーテック(6,7年生) ○縦断班活動(1～6年生)など異 学年集団活動 □学園会選挙開催	○HPを活用して取組の発信 ○親のための進路説明会の開催	○学力調査の結果分析・授業改善 ○中学校でのテスト実施状況や課題点を調査 分析 □全ての教科・領域を通じて「主体的、対話的 で深い学び」を大切にした授業づくり □認知能力と非認知能力を一体的に育成する ための主体的・協働的に探究する活動	○課題解決型学習に小中で取り組 む(京都府・絆の作り手育成プログ ラム「研究校(宇治小)」) □コミュニケーション・スクール研究校(宇 治黄葉学園)

令和4年度

中学校ブロック毎 ジョイントプラン

活動総括図



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 宇治中学校ブロック | 6 南宇治中学校ブロック |
| 2 北宇治中学校ブロック | 7 広野中学校ブロック |
| 3 槇島中学校ブロック | 8 東宇治中学校ブロック |
| 4 西小倉中学校ブロック | 9 木幡中学校ブロック |
| 5 西宇治中学校ブロック | 10 黄檗中学校ブロック（施設一体型） |

令和5年3月

宇治市教育委員会

令和4年度 宇治中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

一宇治中・菟道小・菟道第二小一

教育目標・めざす子ども像

○ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざすこども像

- ・ともに学び、考える児童生徒
- ・たくましく生きる児童生徒
- ・笑顔を大切にする児童生徒

本年度の目標・推進の方向性

- 小中9年間の一貫した学習指導・生徒指導を行い、「生きる力」の柱となる児童生徒の「確かな学力」を育む。
- 児童生徒が人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心を持って行動できる児童生徒の育成を図る。
- 小中学校教員による合同研究を通して、小中一貫教育を意識した授業実践力・人権意識の向上を図る。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

- 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・学力（国語力）の向上に向け、各教科部会において、授業研究会を実施した。「自分の考えを文章化する」をテーマに指導案検討・研究授業参観・事後研修会を進めた。
 - ・宇治中学校区における人権課題について、研修を行った。
 - ・菟道小学校での同和問題に係る直接学習の参観、人権研修に参加する機会を設定した。
 - ・養護教員部会では、中学校に進学する児童や中学校に進学した生徒についての交流を行った。
 - ・全国学力・学習状況調査の結果や質問紙の回答結果を分析し、ブロックとしての課題や方向性の共有を行った。
- 家庭や地域との連携
 - ・小中一貫教育校便り「FUTT」を学期末に配付した。
 - ・宇治中学校体験入学では、中学生が6年生児童に対して、クラブ活動について説明を行った。
 - ・中学校教員が、中学校の「定期テスト」等に対して不安感を持つ6年生児童に対して、取り組み方等のアドバイスを行う。（3月実施予定）

本年度取り組むことができなかった計画について（簡条書き可）

- 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・交流の取組（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）

本年度の成果と課題

(成果)

- ・学力（特に国語力）の向上に向け、各教科部会において、実践交流シートを活用し、「自分の考えを文章化する」をテーマに授業交流・授業改善を進めることができた。
- ・全国学力・学習状況調査の各教科の結果だけでなく、質問紙の回答結果にも触れることにより、教職員に「危機感」を感じてもらうことができた。課題解決シートを活用し、自身の学級経営を振り返ると共に、授業改善を意識し、実践することができた。
- ・宇治中学校区内の人権課題について研修を行ったり、菟道小学校での同和問題に係る直接学習の参観、人権研修に参加したりすることで、人権に対する教職員の理解を深めることができた。
- ・養護教員部会では、より深い交流により、児童生徒への効果的な支援を行うことができた。
- ・宇治中学校体験入学では、小学校 6 年生が中学校生徒により「中学校でのクラブ活動」に対しての話を聞き、中学校進学への不安解消につながった。
- ・ラーニングコーディネーターを中心として、定期的にコーディネーター会議を設定することができた。各校のコーディネーターと連携し、全 4 回の小中合同研修会を開催することができた。

(課題)

- ・児童生徒の学力（特に国語力）の向上に向け、各教科部会において、学級経営の見直しと、授業改善を進めている。それをふまえ、各校で児童、生徒同士、教師とのつながりを意識した学級経営や授業改善策の共通理解と情報の蓄積を引き続き行う必要がある。

次年度に向けて

- ① 研究テーマ「学力（国語力）向上のための、学級経営と授業の改善」（仮）
研究仮説：児童・生徒同士、教師とのつながりを意識的に深めていくことで、授業に対する意識や学習に向かう姿勢が変容し、学力向上につながるのではないかと。
- ② 3 校の全学年で、Forms を使用したアンケートの実施。
- ③ 授業研修では、指導案略案に、自身の学級経営や授業改善のねらい等、日常的な取組等を記入したシートも添付し、その視点に沿って参観、交流する。
- ④ ラーニングコーディネーターがリーダーシップをとり、各校と連携しながら、上記の取組をスムーズに実施できるよう、より一層精進する。

令和4年度 北宇治中学校ブロックジョイントプラン 小中一貫教育活動総括図
ー北宇治中・小倉小・北小倉小ー

教育目標・めざす子ども像

☆ブロック小中一貫教育目標「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

☆めざす子ども像「・自ら考え、自発的に表現できる子（知）・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にできる子（徳）・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子（体）」

本年度の目標・推進の方向性

(1) 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。

・学力向上のための方策を研究する。(小中一貫の視点から、具体的方策を探り実践していく。)

(2) 学力部を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3) 保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信する。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

☆中学校ブロックにおける系統的・継続的な学習指導に関わって

◎9年間を見通した学習指導を研究

①学力部各係会（日常的活動）…学力分析・家庭教育、授業改善、道徳・総学、外国語（英語）、特支・教相、児童・生徒支援

☆生徒指導の充実に関わって（特支・教相係）（児童・生徒支援係）

・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチの方法を示していく。

・小学校、中学校それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、一貫して連携を図っていく。

・小6生の半日体験入学の実施

☆中学校区ブロックにおける特色ある教育活動の展開に関わって

①授業参観の実施 ②学力の実態把握と分析 ③学力向上実践の取組交流と連携 ④児童・生徒の交流

☆家庭・地域との連携に関わって

①小中一貫教育ニュースの発行…原則、学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介

②家庭学習の取組…「家庭学習の手引き」などを活用し、保護者の協力を得つつ、家庭学習の定着を図る。（※各校HPにも記載）

③小倉小学校において教育推進協議会の視察と懇談を実施できた。

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

・中学生による小学校の職場体験が実施できなかった。（以下、新型コロナウイルス感染症との関係）

・学期一回程度の小中一貫ニュースの発行ができなかった。（2・3学期に発行予定）

・第1回総会と小倉小の授業参観が中止になった。→臨時的に2学期に中学校全教員が2小学校の授業参観を実施。

・総会が1回のみになり、第2回総会と北宇治中授業参観及び取組の総括のみを実施。

本年度の成果と課題

・年度当初の校長会において本年度の小中一貫教育の方針や計画の打ち合わせが行えた。

・行事や取組等において、各校コーディネーター間の打ち合わせや連携が行えた。

・小中一貫教育総会が1回のみになったが、授業参観や学力部各係会における交流や総括が実施できた。

・特設として、中学校全教員における小学校の授業参観が行えた。

・総会を通じて、各校の学力分析や学力向上における実践交流、ICT機器の有効的な活用方法など小中の連携が図れた。

・各校において、「取り出し授業」や「補習学習」などの細かい学習に対する手立てを行うことにより、学びに向かう姿勢の向上や基礎的な学力の定着など、CD層を中心とする学力の向上が図れた。

・小中一貫教育における有効的な活用法や実践を、さらに探求していく必要がある。

次年度に向けて

・新型コロナ蔓延により中断を余儀なくされた小中一貫の取組を、これまでの継続的な積み上げを生かせるようにするとともに、さらに社会情勢に応じて改良していく必要がある。

・これまでの積み上げを生かしていく中で、小中一貫教育の取組をさらにブラッシュアップし、サステナブルな取組にしていくとともに、児童・生徒の更なる学力の向上につなげていく必要がある。

・時間的や場所的な制約があり、教職員の働き方改革が行われている中で、市全体として小中一貫教育の在り方を抜本的に再構築していく必要がある。

令和4年度 横島中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

—横島中・横島小・北横島小—

教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

本年度の目標・推進の方向性

【目標】

「横島中学校ブロックの児童・生徒たちにとって魅力的な授業を目指した授業改善を行い、基礎・基本の徹底を目指して、学力向上に取り組む」

【推進の概要】

横島中ブロックの児童・生徒にとって魅力的な授業とは何かを、ブロック全体で追究しながら、授業改善のために各校の実践交流を通して、児童・生徒の学力向上に努める。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

◎合同研修会の運営

- ・第1回…中学校授業参観
- ・第2回…全体会（今年度の方針、学力向上プランの確認、グループ会議①）
- ・第3回…横島小学校授業参観
- ・第4回…定本ゆきこ氏を講師に招いて発達障害を持つ不登校児童生徒についての研修
- ・第5回…北横島小学校授業参観
- ・第6回…全体会・グループ会議（学力向上に向けての協議・学力テストの分析・課題の交流）

◎ラーニングコーディネーターによる取り組み

- ・小学校外国語授業の参観 ・各小学校訪問、授業参観、各校 CN との打ち合わせ
- ・小中一貫だより「マキシマム」をそれぞれ発行 ・CN 会議の定期的開催

【その他の取組について】

◎小中絵画巡回展（中学校11/7～、小学校11/21～、横島コミセン1/16～1/27）

◎服のチカラプロジェクト（9～11月） ◎小学6年生中学校体験

本年度取り組むことができなかった計画について（簡条書き可）

- ・新型コロナ拡大防止のため、部会を開くことができず、授業作りや国語部会など、交流や確認ができなかった。

本年度の成果と課題

- ・学力向上に向けて、小中の教員がブロックの児童生徒における課題解決や授業改善に向けて前向きに交流・協議を行うことができた。
- ・CN間で定期的に会議を持ち、連携を取りながら、小中一貫教育の取組を実施することができた。
- ・服のチカラプロジェクトや小学6年生中学校体験、絵画巡回展を実施し、コロナ禍であってもブロックとして共通した取組を進めることができた。
- ・ブロック共通で一貫した取組を考え、同じ方向を向いて授業改善と学力向上を図れるよう、取組を進める体制作りをこれからも進めていく。
- ・夏季研修会において、定本ゆきこ氏を講師に招いて発達障害を持つ不登校児童生徒についての研修を行い、ブロックの共通課題を克服するための方策を学ぶことができた。

次年度に向けて

- ・基礎学力の充実に向けて、共通した目標のもとに各小中学校で取組を進め、その成果を交流し、横中ブロックの授業スタンダードを確立する。
- ・小中一貫だより「マキシマム」を学期に一度程度発行し、保護者への取組内容の共有を図っていく。

令和4年度 西小倉中学校ブロックジョイントプラン 活動総括
ー西小倉中・西小倉小・南小倉小ー

教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

本年度の目標・推進の方向性

【目標】

学力充実・向上において、C層D層の児童生徒の学習意欲を高める。
教員の指導力を向上させる。

【推進の概要】

- ①教員の研究・研修を充実させるための取組
- ②家庭学習充実の取組とその発信
- ③各校の校務分掌を生かした協力体制

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

- ・夏季合同研修会（リモート）を実施
研修内容①学力分析②特別支援教育「切れ目のない支援」③学力向上「学習動機づけ」
- ・合同授業研究会を実施
西小倉中学校の授業参観、事後研究会「西小倉中学校ブロックの学力向上に向けて」
- ・ラーニングコーディネーターによる学期に1回の出前講座を実施（小6）
①中学校生活概要②学習面について③生徒指導面（ルール）について
- ・家庭学習アンケートを実施、分析
- ・小6体験入学を実施
①授業体験②部活動体験
- ・広報誌を発行
学期に1回

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

- ・年度当初の全体会
⇒ 早い段階での推進委員の紹介、今年度の方針、顔合わせ等の必要性を感じた。

本年度の成果と課題

成果

- ・リモート形式、分散会議など対策を講じてコロナ禍前の形に概ね戻すことができた。
- ・今年度より学期に1回のラーニングコーディネーターによる出前講座（小6向け）を実施し、小中双方にとって効果を感じた。

課題

- ・踏襲する形で残っている取組（特に家庭学習アンケート）の見直し、発展的解消、小中一貫校開校を見据えての組織改革に着手する必要がある。

次年度に向けて

- ・前年踏襲の形をやめる
- ・小中一貫校開校に向けた組織改革
- ・児童生徒、教職員間の小中交流機会を増やす
- ・学力分析の実施
- ・「学習動機付け」など共通のアクションプランを立て、実行する

令和4年度 西宇治中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

ー西宇治中・伊勢田小・神明小ー

教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

○知「展望する力」：深く考え、よく聴き、意欲的に表現する子

○徳「つながる力」：温かい心で助け合う子、節度をもった礼儀ある子、違いを認め合える子

○体「挑戦する力」：ねばり強く諦めない子、基本的生活習慣や健康を配慮できる子

本年度の目標・推進の方向性

主体的・対話的で深い学び、及び進路を見据えた学力向上の取組

- (1)「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・夏季研修会では、GIGAスクール構想についての今後の展望や、ICTを活用した授業について小中合同研修を行った。
- ・小中学校において、統一した「学習の手引き」を入学時等に配付し、学習内容や学習方法、家庭学習の習慣化等の家庭への理解を求めた。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・小6の中学校体験では、部活動体験を行い、6年生が中学校の雰囲気を感じ取ることができた。
- ・朝のあいさつ運動を各学期で実施し、児童会・生徒会相互の交流を深めた。
- ・6年生を対象に学習説明会を実施し、中学校入学後に滞ることなく学習を進められるようにした。
- ・春休みの宿題を、ブロックで統一したものを作成した。

(3) 家庭や地域との連携

- ・各校の学校通信やホームページ等により、合同研修会や小中連携の取組を家庭や地域に発信した。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・小中合同研修会の実施にあたり、ブロック推進会議やコーディネーター会議等で事前の打ち合わせを行い、研修内容や組織体制についての検討をし、研修内容の充実を図った。

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

- ・夏季研修会で、各教科部会や領域部会を実施することができなかった。そのため、授業研究に向けての事前協議や打ち合わせをすることができなかった。

本年度の成果と課題

- ・夏季研修会でICT活用についての研修を行った上、ICTを活用した各教科の授業を神明小学校で公開し、研究協議を行った。各校でのタブレット端末の活用例や課題を交流することができた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により、当初予定の回数より合同研修の機会が減った。そのため生徒指導や学力充実についての教員間での交流が制限され、ブロック内での組織体制や小中連携の大切さを再確認した。

次年度に向けて

- ・学習や生徒指導において、小中間で共通認識のもと指導を行えるように、各教科・領域部会で指導方法等を確認していく。
- ・今年度のICT活用の研修を活かし、更に効果的な授業への活用がされるよう、授業研究を深めていく。

令和4年度 南宇治中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

ー南宇治中・西大久保小・平盛小ー

教育目標・めざす子ども像

○ブロック小中一貫教育目標

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

○めざす子ども像

「夢や希望を持った、未来をたくましく生きぬく子ども」

本年度の目標・推進の方向性

「主体的に学び・活動できる児童生徒の育成～3校のつながりを意識して～」

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

- ・小中一貫教育合同会議及び3部会の実施 〈本年度の方向性や部の方針及び課題の確認〉
- ・児童会生徒会合同会議(Zoom) 〈あいさつ運動の打ち合わせ〉
- ・生徒会・児童会合同でのあいさつ運動
- ・帰国児童理解学習（平盛小日本語教室の担当より）
- ・中文拳演舞指導（南宇治中中文拳クラブより）
- ・小中連絡会
- ・小中一貫教育夏季合同研修会（オンライン開催）
- ・小中授業参観（平盛小）
- ・中学校体験入学
- ・小中授業参観（南宇治中）及び3部会の実施 〈1年のまとめと実践交流〉

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

- ・年間3回の部会を予定していたが、年度途中の部会を実施できなかった。
- ・中学校生徒会主催の地域ボランティア清掃

本年度の成果と課題

- ・組織を見直し、「学習部」・「指導部」・「支援部」の3部会にしたことで、3校の教務主任が中心となって部会を進行し、3校の職員で協議することができた。
- ・今年度2年ぶりに対面で教職員が協議する機会がもて、改めて中学校進学を見据えた小学校での取組を見直す必要性を共有することができた。
- ・夏の研修会はオンラインであったが、職員の希望で愛着障害や発達障害についての講演を聞くことができた。
- ・中学校の体験入学は授業体験とクラブ活動体験の実施ができ、6年生の進学の意欲につなげることができた。
- ・3回の部会が2回になったことで継続的な取組の交流ができなかった。

次年度に向けて

- ・計画的に部会を開催し、教職員間の横のつながりを強める。また、部会で交流したことを各校で全体に広げ、具体的な取組に発展できるようにする。
- ・小中連携にとどまらず、小小連携も視野に入れ、児童、生徒レベルの連携も計画的に実施していく。
- ・夏の研修については教職員の意見を聞きながら、ブロックの実態を見据えて実施していく。
- ・コミュニティ・スクールについての各校の取組を交流し、地域社会総がかりで子どもたちを育む意識を共有する。

令和4年度 広野中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

ー広野中・大久保小・大開小ー

教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めている力

本年度の目標・推進の方向性

- ・児童・生徒の語彙力を増やすといった基礎学力（認知能力）定着のための補充学習に加え、課題解決型学習の手法や授業改善を通して言葉の活用場面の設定などから積極性（非認知能力）の育成を目指す。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

☆系統的・継続的な学習指導に関わって 《基礎学力の定着》 ・総会の実施による小中一貫教育の取組周知 ・小小連携の計画及び実施（授業研の交流と外国語授業での交流） ・3校での夏季合同研修の実施 ・中学校定期テスト不安軽減の取組（中学校定期テストに合わせた家庭学習）	☆生徒指導の充実に関わって 《学びの環境づくり》 ・3校の生徒指導の交流（6月・11月・1月）（問題事象の交流や傾向の分析など） ・少年補導地域懇談会での状況交流 ・長期休業中の生活のきまりについて交流
☆特色ある教育活動の展開に関わって 《学びに向かう力の涵養》 ・「宇治学」の充実 ・HOT-MEETING（3校合同児童生徒会）の実施（年3回程度） ・福島ひまわりプロジェクトの実施 ・小6の中学校体験学習での小小交流事業 ・中学1年生による小学校1年生への紙芝居読み聞かせ	☆家庭・地域との連携に関わって 《学びの場の拡大》 ・HOOP（宇治ひろの学園小中一貫教育だより）の保護者への配付 ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用 ・3校巡回作品展示の保護者向け公開 ・小6の中学校体験学習の保護者参観

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

- ・小6 授業体験時に行っていた小小交流及び保護者参観
- ・中学校定期テストの不安軽減の取組み
- ・長期休業中の生活のきまりについての交流。
- ・部活動体験・地域懇談会

本年度の成果と課題

コロナ禍で中止になっていた小6 体験授業を3年ぶりに実施できたことはよかったが、同時に行う予定であった小小交流、保護者による授業参観は行うことができなかった。また、他日に予定していた部活動体験も行うことができなかった。実施時期や内容について検討が必要である。

HOT-MEETINGでの取組みを、例年以上に児童生徒及び教職員にも周知できたことはよかった。特に児童会・生徒会による学校紹介の映像を全体で鑑賞したり、小学校では福島ひまわりプロジェクトの取組みについて ICT を活用し、全校に説明したりすることができた。

「伝え合う力を育む」をテーマに各校で非認知能力の育成に取り組むことができた。

次年度に向けて

各校で取り組んでいる重点内容と、3校での取り組み「伝え合う力を育む」が2本柱になっており、教員が取り組みにくい状況が見られた。2つの重点がもっと重なるようにラーニングコーディネーターが調整して設定できると、より良い取り組みとなる。

令和4年度 東宇治中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

ー東宇治中・三室戸小・南部小・岡屋小ー

教育目標・めざす子ども像

教育目標「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像 「自ら学び学習する児童・生徒」「思いやりのある児童・生徒」「たくましく生きる児童・生徒」「健康や安全を考える児童・生徒」

本年度の目標・推進の方向性

○小中一貫教育実施6年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、将来にわたって生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を進める。
○ブロック校長会議やコーディネーター会議を定期的に開催し、小中一貫教育の方向性を全体に示しながら、具体的な取組を推進する。ラーニングコーディネーターはその調整役を果たし、ブロック児童生徒の学力充実・向上の様々な取組を推進する。
○本ブロックの児童生徒の実態や教育の方向性・動向を踏まえた取組の工夫・改善を積極的に進める。その取組の一つとして、宇治市の「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」の指標について、ブロックとしての分析を行い、本ブロック児童生徒の課題である「ことばの力」「主体的な学習態度」「対話的な深い学び」の充実と関連させた具体的な取組を推進する。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

＜教職員研修＞

○小中合同研修会(8/24・11/16) ○小中合同研究授業(11/16 会場:東宇治中)
→当初計画にはなかった「非認知能力の向上」について、を主軸に研修を行った。
○相互授業参観 ○4校学校便りを教職員へ配布 ○3小合同研修会＋合同学年会(8/24)
○東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

＜児童・生徒交流＞

○小学6年生の中学校体験入学(11/9) ○中学生の美術作品巡回展示(2学期)
○花植ボランティアによるプランター贈呈

＜家庭・地域との連携＞

○小中一貫教育便りの発行 ○「家庭学習の手引き」の配布 ○小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置

＜小中スムーズな接続のために＞

○スクールライフサポートブック配布(小学6年) ○先スタ(中学入学前の学習)の配付(小学6年)
○小学6年生の中学校体験入学(11/9) ○小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
○東宇治中入学保護者説明会(11/25) ○小中連絡会(5/23・12月・2月)
○中学校学校便りを小学6年生に配布 ○授業スタンダードの積極的活用 ○定期テスト対策(小学6年)

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

○教職員広報の発行 ○中学2年生の小学校での職場体験(2学期)
○児童会・生徒会協同の取組 ○地域行事での交流

本年度の成果と課題

＜成果＞

○非認知能力の向上に向けて、岡山大学の中山准教授に協力をいただき、コーディネーターが中心となって、夏季研修会や秋の合同授業研を実施できた。
○ブロックの小・中学校の授業改善や児童生徒の非認知能力の向上のため、特に夏季研修会で、生活状況調査に焦点を当てた分析を行い、共通の認識を持つことができた。
○定期テスト対策(小6)による小中の接続強化ができた。
○家庭学習の手引き・スクールライフサポートブックによる家庭学習習慣・生活習慣の確立を図ることができた。

＜課題＞

○児童生徒の実態把握、特別支援教育、生徒指導の交流の機会が少なかったため、来年度以降は工夫が必要である。

○本ブロック児童生徒の学力課題や学力の基盤となる生活課題に迫る、家庭・地域と連携した取組を十分に行うことができなかった。

○コロナの影響等もあり、地域・PTA(育友会)行事はできなかった。

○各校のアクションプランと連動させた学力の充実・向上の取組については、各校での研究にとどまった。

次年度に向けて

○ブロック校長会・コーディネーター会議を中心に取組を推進したが、各校の学力推進委員の役割が不明瞭であった。また本ブロックとしては、非認知能力に係る研究が、年度途中での開始であったため、研究体制を整えることができなかった。

→①各校の学力推進委員の役割を明確にして、ラーニングコーディネーターや各校コーディネーターとの連携のもと、アクションプランの目標達成に向けた組織作りと実践を行っていく。

②令和5年度は、年度当初から「非認知能力の向上」に焦点を当てた研究を進め、南部小学校での秋の公開授業研に繋げていきたい。

令和4年度 木幡中学校ブロックジョイントプラン 活動総括図

一木幡中・御蔵山小・木幡小・笠取小・笠取第二小

教育目標・めざす子ども像

ブロック小中一貫教育目標

故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

めざす子ども像

- ①意欲を持ち、学び続ける児童・生徒（知）
- ②思いやりにあふれ、ともに伸びる児童・生徒（徳）
- ③健やかな心と体をもった児童・生徒（体）
- ④ちがいを認め、命を大切にする児童・生徒（人権）
- ⑤ふるさとを愛し、つながりを大切にする児童・生徒（地域）

本年度の目標・推進の方向性

【目標】

- ・学習指導要領（評価を含む）をふまえて、学力向上のための主体的・対話的な授業づくりに結びつく研修を木幡中ブロック全体で行い、さらに深める。
- ・3回の小中合同研修会において、各教科部会、連絡会毎に設定した課題について研修を深める

【推進の概要】

- ・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましろ授業スタンダード」や「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた学力向上のための主体的・対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で行う。
- ・3つの連絡会（学力充実いしずえ、児童生徒理解、健康安全）と、8つの教科部会（国語、生活・社会、算数・数学、生活・理科、芸術【図工、美術、技術、家庭、音楽】、保健体育、外国語・英語、道徳）の協議、交流を通して、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・特別支援教育の視点を生かした生徒指導の研修を継続して行う。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

- ・小学校・中学校で「家庭学習の手引き」を配付
- ・ラーニングコーディネーターが中心となり、ジョイントプランに沿った形で行う年3回の小中合同研修会は、第1回（6／15）、第2回は特別支援教育の講演会のみ実施（8／23）、第3回（11／8）を実施
- ・全教職員が、8つの教科部会または3つの連絡会に所属し、教科部会では実践交流と次年度の研究テーマ、連絡会では、現状や実践の交流を実施
- ・小学校6年生の中学校半日体験入学を、生徒会が中心となり実施
- ・新入生保護者説明会を実施
- ・「こはた小中一貫だより」の各校掲示や小中合同研修会の取組のホームページ掲載により取組の啓発
- ・各学校の学校だよりを校内掲示
- ・小学校6年生への春休みの課題の配付、中学校1年での回収
- ・小小連携で三校交流を実施（午前のみ）
- ・ラーニングコーディネーターが小学校を訪問し、授業の参観や行事等に参加

本年度取り組むことができなかった計画について（箇条書き可）

- ・第2回小中合同研修会で講演会はZoomで行ったが、分散会（教科部会、連絡会）がコロナで集まらなかったため中止
- ・おもろいやんか木幡への参加 → 雨天のため中止
- ・吹奏楽部による小学校での発表会は中止

本年度の成果と課題

〈成果〉

- ・小中合同研修会で学力の充実・向上を図るために、前年度に作成した教科ごとのテーマ(課題)について実践を交流協議した。第2回の小中合同研修会の分散会(教科部会、連絡会)がコロナのため実施できなかったが、6月・11月の分散会で実践の交流、テーマの再設定を繰り返すことができ、「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい主体的・対話的な授業づくりにつなげることができた。また、評価材料や方法、タブレット等のICTを用いた授業について交流し、より理解を深めることができた。
- ・ラーニングコーディネーターと各小学校のコーディネーターを中心に小中一貫教育に関わる取組の推進が図れた。

〈課題〉

- ・小中合同研修会の取組については、ブロックの規模が大きいこともあり、目標の共通理解が進み難しく、教科によって取組内容の深さに差異が出た。
- ・小学校と中学校の組織的な違いもありスムーズに進めることができにくく、継続的に取り組みにくい部分があった。
- ・学力充実・向上のため、目標設定シートを通してブロックの教職員のさらなる共通理解が必要である。(効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン)

次年度に向けて

- ・小中合同研修会での研究授業の持ち方や教科部会での研究テーマについては、各教科部会で決定し、実践し、学力の充実・向上に向けて取り組み、「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい主体的・対話的な授業づくりをさらに深める。
- ・小中合同研修会を計画通りに進める中で、より効果的な手法を考え改善していくための検討を行う。
- ・第2回小中合同研修会で特別支援教育についての講演は継続して行う。
- ・小中合同研修会で教育相談担当者による小中交流の場を確保する。
- ・コロナ禍で実施できなかった取組を元に戻していく中でより進んだものに改変していく。

教育目標・めざす子ども像

たかく すずしく たくましく

- ① 高い志を持って、学びの道を究める人(確かな学力)
- ② さわやかな心、優しい心を持った人(豊かな人間性・社会性)
- ③ 強い志を持って、人生を切り開く人(意欲や情熱・健康な体)

本年度の目標・推進の方向性

主体的・対話的で深い学びによる確かな学力の育成

- ～正解がひとつでない問いを主体的・協働的に追究しようとする児童生徒の育成～
- ・教科等横断的な課題解決型学習による論理的思考力の育成
- ・認知能力と非認知能力を一体的に育成

本年度の取組（実施内容を見直した取組を含む）

- 1 系統的・継続的な学習指導に関わって
 - (1) 全ての教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業づくりを進める。
 - (2) 認知能力と非認知能力を一体的に育成するため、総合的な学習の時間をはじめ、全ての教育活動を通して正解がひとつでない問いを主体的・協働的に探究する活動を行う。
(小学校：「絆の作り手育成プログラム」)
- 2 生徒指導の充実に関わって
 - (1) 生徒指導主任、学年主任を中心に、9年間の継続的な生徒指導を進める。
 - (2) 児童生徒の課題を小中で共有し、解決に向けて一致した指導を行う。
 - (3) 日常的な取組や声掛け、指導を通し、規範意識の確立と自尊感情を育む。
- 3 特色ある教育活動の展開に関わって
 - (1) 小中学校教員の連携による9年間の系統性を重視した学習指導を推進する。
 - (2) 小学校高学年教科担任制の導入と、中学校教員による授業を行う。
 - (3) タブレット端末を活用し、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。
 - (4) 学園会を組織し、学級活動と学校行事を通して、他者と協働する様々な集団活動を行う上で必要となる行動を身に付け、集団生活上の課題を解決する姿勢を養う。
 - (5) 共に学び、活動できる児童生徒の育成を目指した異年齢集団活動や、児童生徒間の行事交流。
- 4 家庭・地域との連携に関わって
 - (1) 学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進していく。
 - (2) 「学園だより」の配布や正門前への掲示と、ホームページのこまめな更新により、学園の取組の家庭や地域の方へ積極的に広報する。
 - (3) 家庭や地域の願いや意見を生かした学校運営を進めるため、保護者アンケートや学校運営協議会の熟議を反映した学校評価を行う。
 - (4) 保護者に向けた進路説明会を開催する。

本年度取り組むことができなかった計画について（簡条書き可）

推進体制の充実と改善

- ・小中併せて一つの組織と考えるが、必要に応じて形態を変えて会議・研修会を実施する。
- ・教職員の情報共有と意思統一を図ることが不十分と感ずることもあるため、共通認識のもと児童生徒の指導にあたることができるよう、密な連携を意識していく。
- ・基礎学力定着に向けた取組を学園全体で見直し、学力の分析を行うとともに、指導方法の確立を図る。
- ・小学校1年生から中学校3年生までの9年間を見通した指導と評価の一体化の推進を図る。

本年度の成果と課題

【成果】

- ・小中の教職員が円滑に連携できるようにラーニングコーディネーターを中心に連絡調整を行い、課題解決型学習による認知能力と非認知能力の一体的な育成をめざし、9年間を見通した系統的な取組を進めることができた。
- ・学級、学年の状況を鑑み、中学年の理科において少人数授業及びTT授業を増やすことで、学力状況に改善が見られた。
- ・図書館教育や2年生の九九の学習等、地域ボランティアを有効に活用し学習支援を行うことができた。

【課題】

- ・適切な時期に、必要な議題において部会を行うことができなかったため、先を見通した計画を立てつつ、必要な部会設定をしていく。
- ・9年間を見通した指導（教科等の指導方法の改善、校則や生徒指導）等の確立が不十分であるため、小中の教職員が互いに意見交流していく。
- ・小中一貫校における育友会活動や地域連携における実践を積み重ね、学校と地域が一体となってよりよい教育活動ができるようつながりを強化していく。

次年度に向けて

- ・学力をさらに向上していくために、ラーニングコーディネーターを中心に校内の連絡・調整を密にし、小中一貫教育を推進していく。
- ・学力をさらに向上させていくための体制を検討していく。
（少人数授業、チームティーチング）
- ・学年主任を中心とした学年経営、児童生徒対応、保護者対応の強化を図っていく。

令和4年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告

1 協議会の活動

小中一貫教育に関する取組全般の進行管理を行い、取組内容の点検確認とともに改善について意見の交換等を行う。

2 令和4年度の活動報告

(1) 協議会の開催

①第1回協議会 7月11日(月)

②第2回協議会 3月7日(火)

(2) 中学校ブロックの特色ある取組の視察

取組を視察し、その後現地にて交流・協議

	日 付	中学校ブロック 【視察校】	取組内容	視察委員
①	9月8日(木)	西小倉中ブロック 【西小倉小学校】	・文化芸術による子供育成推進事業 地域のNPO(こみねっと)の方を講師に招き、お茶についての劇づくりを行う宇治学3年生での取組	榊原 会長
②	9月13日(火)	南宇治中ブロック 【平盛小学校】	・小小連携の取組(午前) 平盛小教員が西大久保小学校の児童に帰国児童理解学習を行う取組	榊原 会長 島田 委員
			・ブロックの取組(午後) 南宇治中学校、中国文化拳術部生徒が児童への演武指導を行う取組	島田 委員
③	11月29日(火)	北宇治中ブロック 【小倉小学校】	・文化芸術による子供育成推進事業 地域のNPO(こみねっと)の方を講師に招き、お茶についての劇づくりを行う宇治学3年生での取組	井戸本委員 松丸 委員
④	12月16日(金)			薮 副会長 内田 委員 岸 委員 清原 委員

3 宇治市小中一貫教育に係る視察状況

(1) 滋賀県甲賀市小中学校教育のあり方審議会より(委員・教育長・事務局)

「宇治市の小中一貫教育についての視察」

日時 令和4年7月5日(火)

視察校 宇治黄檗学園

(2) 兵庫県加東市教育委員会事務局 小中一貫教育推進室より

「一体型小中一貫校施設建設に係る視察」

日時 令和4年7月19日(火)

視察校 宇治黄檗学園

(3) 文科省国際交流・県市防災教育研修

台湾教育部による防災教育視察訪日団

「学校防災教育に関する取り組み(防災訓練の項目・避難ルート・関連設備の整備等)」

日時 令和5年3月6日(月)

視察校 宇治黄檗学園

子どもと子ども、子どもと教職員、教職員と教職員、地域と学校をつなぎ、

学びと育ちの絆が深まる宇治市の小中一貫教育

つながりとふれ合いの中で愛情や信頼を感じ、

たくましく、仲間と高め合う宇治市の子ども

小中一貫教育がスタートして10年、宇治市の教育において、子どもの「学び」や「育ち」に効果のあるものとして様々な取り組みが実践されてきた。さらに、「第2次宇治市教育振興基本計画」で示された「教育ビジョン」の実現に向け、これまで構築してきた「学び」と「育ち」の「縦の接続」を高めるとともに、地域との連携・協働による「横の連携」を強め、さらなる充実を図っていく。

当初「中1ギャップ」「学力の充実・向上」の課題解決のために、幅広く取り組んできたものが、より良いものへと改善され、さらに、各中学校ブロックの子ども、教職員、保護者、地域の実態に応じて精選され、特色ある取り組みとなっている。

また、小中一貫教育の体制が構築され、ラーニングコーディネーターを中核に、小中の教職員が連携・協働し、児童生徒の発達段階に応じた学習指導や生徒指導が行われる中、校種を超えた共通理解が図られ、中学校ブロックの全ての教職員で子どもを育む環境が整ってきている。今後は、地域とともに子どもの育ちと学びが深められるよう推進していく。

1 9年間を見通した子どもの育ちと学びのつながり

- ◆子どもにとって、より良い育ちの場をつくる
- ◆より良い学びとなるよう、子ども自身に見通しをもたせた教育活動を行う

中学校ブロックの児童生徒の学力充実・向上に資するため、また、就学前から義務教育の先の進路保障までを見通した小中一貫教育の実践のため、校種や学年の課題に個別に対応しつつ、ラーニングコーディネーターを有効に機能させて、各ブロックの児童生徒の実態に応じた授業研究を行い、より良い学びの場をどのようにするかといった視点で課題解決に向けた取り組みを立案し、カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた系統的な学習指導を進める。

また、小中連携の取り組みの中で、小学生が中学生の姿を見ることは、あこがれとともに将来の自分の姿のイメージを持ち、目標として前向きな気持ちで学校生活に向かうことにつながるものであるため、中学校ブロックで共有された児童生徒、地域の特色を生かし、小小、小中学校間での交流や授業、行事など合同の取り組みを考え、対面やオンラインでのハイブリット方式で工夫して実施していく。

- 各中学校ブロックのテーマに添った「合同の授業研究」
- 小学校で同じ学びをして中学校入学を迎えられるよう、「小小連携」による「宇治学」等の授業内容の共有
- 小学6年生の「中学校の学習・生活体験」により、入学時の不安を軽減させる
- 各学年の「学習の手引き」等でスタートを整える
- 「小中、小小の合同の取り組み」で児童生徒の交流を図る

2

連続性のある子ども理解と生徒指導

- ◆児童生徒を小中の教職員が相互に理解し、共通の姿勢で指導する
- ◆切れ目のない支援で子どもの育ちを支える

各中学校ブロックにおける理解や支援に関わる部会の情報共有を日常的に行い、小中の接続を強化し、さらに地域や関係機関と連携し、多角的な視点での児童生徒理解を進め、切れ目のない連続性のある支援・指導を進める。

これまで行ってきた小中一貫教育に係るアンケート結果では、小中一貫の取り組みによって、小学6年生の中学校入学に対する不安が軽減されることが分かっている。今年度は更に、児童生徒の不安解消に向けた要因を解明し、解消に向けた積極的な取り組みが進められるよう項目を見直したアンケートを実施する。

- 「合同研修」等によるブロックの特色や課題の共有
- 「アンケート」による児童生徒の実態把握
- 「研究部」等による支援のあり方の検討

3

指導や支援に磨きがかかる教職員の連携と協働

- ◆組織的に取り組む
- ◆ブロックの教職員の実践力を向上させる

ブロック校長会の方針の下、ラーニングコーディネーターを要として、義務教育9年間の教育目標や課題を明確にした「ジョイントプラン」を策定し、教職員の協働による教育活動を展開する小中一貫教育を一層進める。

とりわけ、学力の定着と充実・向上を柱とした小中一貫教育の推進に向け、各課題解決に向けて具体的な研究・研修に取り組むとともに、教職員が相互の授業を参観することで、子どもたちがどのような学びや学び方をしているかを知り、9年間の学びを見通した授業を行う。

- 「小中合同研究」、「授業参観（研究授業）」による指導力の向上
- 「ジョイントプラン」を策定し、計画的に「研究部会」での研究と共有
- 「連携授業」や「宇治スタンダード」による9年間の学びを見通した授業実践
- 各ブロックでの「ブロック校長会」、「推進会議」、「コーディネーター会議」と、市全体の「ラーニングコーディネーター会議」の開催

4

家庭・学校・地域でつくる育ちの輪

- ◆地域、保護者とともに子どもの育ちを支える
- ◆地域が核となり、小中学校、児童生徒をつなぐ

家庭においても、児童生徒が主体的に学習に取り組める環境の構築に向けて、学校と家庭が連携・協力し、生涯にわたって自ら学び続ける学習習慣の定着を図る。

地域とのつながりを大切に、家庭・学校・地域が協働で取り組み、子ども達に豊かな環境での学びの場を提供し、自尊感情や自己有用感を高める。

これらの様々な実践を、小中一貫教育の取り組みとして「見える取り組み」となるよう広報誌の発出や学校ホームページに加え、各種団体が発行する機関誌等も活用し、適時性のある積極的な情報発信となるよう工夫する。また、地域、保護者からの意見や考え等も大切にし、積極的に情報収集を行い、双方向型の取り組みを進める。

- 地域学校協働活動等で「地域と協働の行事、取り組み」を実施する
- 学校運営協議会等で「地域とともに考える教育活動」を推進する
- 「小中一貫だより」の発行や掲示、また、「各種団体が発行する機関誌」等を活用し、広報活動を行う
- 「ホームページ」の活用による、適時性のある情報発信と「保護者アンケート」等による情報収集
- 「地域懇談会」等の実施により、ブロックの保護者、地域のつながりをつくる